

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991100015		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ都留中津森サンフラワー		
所在地	都留市中津森1033-1		
自己評価作成日	平成23年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いろいろな場所へ外出(観光)や外食している。また、季節行事を行い楽しんで頂けるよう計画し支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の新しい事業所である。近隣に一般住居の少ない地域ではあるが、事業所や利用者への理解を図るために、事業所主催の夏祭りへのお誘いをポスティングしたり、隣接地区の食生活改善推進委員の方々との交流など、積極的に地域との関わりを作る取り組みが行われている。また、管理者と経験豊かなケアマネジャーを中心に、利用者一人ひとりのケアプランを全ての職員がモニタリングを行うなど、職員全員によるチームケアを目指した実践が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 ツクイ都留中津森サンフラワー

[セル内の改行は、(Altキー)+ (

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (竹とんぼ)	ユニット名 (紙ふうせん)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個性尊重・ゆとり・思いやり・寄り添う・笑顔・優しさ・幸せ・諦めない介護・地域密着をフロアに掲示し、常に確認出来るようにしている。	個性尊重・ゆとり・思いやり・寄り添う・笑顔・優しさ・幸せ・諦めない介護・地域密着をフロアに掲示し、常に確認出来るようにしている。	日常的なケアの場面や月例ミーティングの中で、職員間で支援方法にブレが出ないよう、理念の意識づけを行っている。開設当初に職員間で話し合っ作った理念であるが、事業所案内パンフレットの見直しを機に理念についても再検討を行っているところである。	理念をもっと具体的でわかりやすく表現されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同地区の食生活改善推進委員会の方達と交流を持ち指導を受けている。	同地区の食生活改善推進委員会の方達と交流を持ち指導を受けている。	職員の知人からの紹介で宝地区の食生活改善推進委員会の来訪があり、利用者と食事会を行った。同地区では営利法人は自治会に加入できない決まりがあり、地域の活動や行事などに参加する機会は少ない。地域情報を得る方法を模索中である。	地域情報の収集や事業所からの情報発信など地域住民との関係づくりのために、回覧板のルートに加えてもらうよう、自治会長を通じて依頼することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第1・3金曜日にスタッフと入居者と一緒に近所のクリーンアップ活動として清掃を行っている。	毎月第1・3金曜日にスタッフと入居者と一緒に近所のクリーンアップ活動として清掃を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、市町村担当者・自治会長・家族に出席して頂き、意見や思いを聞き、ミーティングにて職員に周知している。	2か月に1回、運営推進会議を行い、市町村担当者・自治会長・家族に出席して頂き、意見や思いを聞き、ミーティングにて職員に周知している。	参加メンバーからの提案により、会議議事録をすべての家族へ郵送したり、事業所だよりを創刊するなど、改善が図られた。また、地域住民参加による避難訓練についても意見があり、実施に向けて検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	文書関係での報告等での行き来や、不明な点での質問やアドバイスは受けるようにしている。	文書関係での報告等での行き来や、不明な点での質問やアドバイスは受けるようにしている。	市の介護保険担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の現状をよく理解してもらっている。入居率や経営についてアドバイスをもらったり、市外の利用申込者について相談するなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止に関する理解を日頃から深め、職員間で話し合いながら拘束しなくても生活できるよう対応方法を考えている。	身体拘束の禁止に関する理解を日頃から深め、職員間で話し合いながら拘束しなくても生活できるよう対応方法を考えている。	転落防止のためのベッド柵使用の利用者がいたが、呼び出しマイクを設置して職員が即座に対応することにより、現在は使っていない。事業所全体の玄関は施錠していないが、各ユニットの扉は防犯設備の構造上施錠している。解錠できるか検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月末にグループホーム全体で勉強会の時間を設けて行っている。	毎月末にグループホーム全体で勉強会の時間を設けて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と計画作成担当者は実際に成年後見人制度の手続きに関わりを持ったが、職員に関しては勉強する機会は設けていない。	管理者と計画作成担当者は実際に成年後見人制度の手続きに関わりを持ったが、職員に関しては勉強する機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退去する時には必ず家族にゆっくり説明する時間を設け、不明確な点がない様になっている。	契約・退去する時には必ず家族にゆっくり説明する時間を設け、不明確な点がない様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様苦情窓口を本社と事業所に設けており苦情内容等も常に職員が分かるように記録し、ミーティングなどで話し合い反映させている。	お客様苦情窓口を本社と事業所に設けており苦情内容等も常に職員が分かるように記録し、ミーティングなどで話し合い反映させている。	日頃から来訪時などに積極的にコミュニケーションをとって要望や意見を聞いている。また、事業所内に意見箱を設置している。年2回、全ての家族と利用者が参加する家族会が開かれている。運営推進会議には、毎回、複数名の家族の出席がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング・カンファレンスを行い職員の感じていることや考えなどを積極的に聞き入れて反映させている。	毎月ミーティング・カンファレンスを行い職員の感じていることや考えなどを積極的に聞き入れて反映させている。	毎月1回行われる職員会議では、日頃の職員の気づきやアイデアを全員で検討し、ケアの統一を図っている。また、事業所の管理者・職員以外に所長も出席し、職員の意見や提案が上部組織にも伝わる配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・社員・嘱託社員に関しては、個々に目標を立てて活動するように面談を行っている。	管理者・社員・嘱託社員に関しては、個々に目標を立てて活動するように面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間で社内研修計画が組まれており、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われている。事業所内でも毎月末には年間を通して計画を立て勉強会を開催し、各職員に勉強会の内容を作成させ講義を行う取り組みをしている。	法人内で年間で社内研修計画が組まれており、新人から管理者まで計画に沿って研修が行われている。事業所内でも毎月末には年間を通して計画を立て勉強会を開催し、各職員に勉強会の内容を作成させ講義を行う取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会は設けており、法人外での研修に関しては協会等から情報や通知が来た時に職員の希望で受けられるようにサポートをしている。	法人内での別の事業所同士の交流や会議等をする機会は設けており、法人外での研修に関しては協会等から情報や通知が来た時に職員の希望で受けられるようにサポートをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と事業所内の見学や来所された時や、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。	家族と事業所内の見学や来所された時や、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事業所内の見学や来所された時や、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。	家族と事業所内の見学や来所された時や、または自宅を訪問した時に必ず面談をして情報を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺っている中で見極め確認し、現時点で必要としている部分と自立している部分を整理し対応している。	話を伺っている中で見極め確認し、現時点で必要としている部分と自立している部分を整理し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションを取り一緒に食事をや買い物をし、外出や観光などの計画を立てている。楽しんでるか寂しそうにしているかなどを観察している。	常にコミュニケーションを取り一緒に食事をや買い物をし、外出や観光などの計画を立てている。楽しんでるか寂しそうにしているかなどを観察している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に家族と話す機会を設け日頃の様子を伝えたり、家族の本人に対する思いを伺うようにしている。また、気がついたことや本人の要望などがあった場合は電話で伝えている。	面会の際に家族と話す機会を設け日頃の様子を伝えたり、家族の本人に対する思いを伺うようにしている。また、気がついたことや本人の要望などがあった場合は電話で伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会や馴染みの場所への同行に関しても、本人や家族の意向や不都合がない限り特に制限等はない。	馴染みの人の面会や馴染みの場所への同行に関しても、本人や家族の意向や不都合がない限り特に制限等はない。	近所の同級生の来訪や、職員が同行して自宅を見に行くなどの支援をしている。事業所の玄関を出入り自由にして、気軽に訪問できる雰囲気づくりをするとともに、来訪者に引き続き訪問してもらえよう、職員は来訪者と積極的に会話を交わすようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のお付き合いに関しても、ごく自然体でコミュニケーションが取れるように配慮をしている。常に見守りながら必要時に声掛けし介入するように心がけている。	入居者同士のお付き合いに関しても、ごく自然体でコミュニケーションが取れるように配慮をしている。常に見守りながら必要時に声掛けし介入するように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対しても、後日写真が出来上がった等お伝えしなければならないことがあれば連絡を取り、様子を伺って他施設に移っている場合であっても面会に行っている。	退居された利用者に対しても、後日写真が出来上がった等お伝えしなければならないことがあれば連絡を取り、様子を伺って他施設に移っている場合であっても面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者がモニタリングを行い本人や職員が見たり聞いた様子を取り上げて、職員全体で本人の希望や意向を把握し、検討している。	計画作成担当者がモニタリングを行い本人や職員が見たり聞いた様子を取り上げて、職員全体で本人の希望や意向を把握し、検討している。	入居時に利用者と家族に面接して意向の把握をしている。その後は、センター方式をもとに独自に作った「私が出来ること出来ないことシート」へ日頃の利用者の言動や家族との会話から職員が把握した思いや希望を記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の面接時に本人と家族にお話を伺い、また、以前担当していた介護支援専門員にも詳細情報を聞き出し把握に努めている。また、グループホームで共に生活している中で理解している。	初回の面接時に本人と家族にお話を伺い、また、以前担当していた介護支援専門員にも詳細情報を聞き出し把握に努めている。また、グループホームで共に生活している中で理解している。		
25		○暮らしの現状の把握	毎月カンファレンスを行い職員で意見交換	毎月カンファレンスを行い職員で意見交換		

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニッティングを参考に行っている。また、モニタリングを参考にしながら行っている。	ユニッティングを参考に行っている。また、モニタリングを参考にしながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとの評価の際に本人や家族・職員の意向等、それぞれに伺いケアプランに反映している。	3か月ごとの評価の際に本人や家族・職員の意向等、それぞれに伺いケアプランに反映している。	家族には来訪時や電話連絡で意向の把握をするともに、3か月ごとに利用者一人ひとりについて、全ての職員がモニタリングを行い、それをケアマネジャーが取りまとめ、ケアカンファレンスで検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護記録を記入を計画見直しの参考にしている。	毎日の個別の介護記録を記入を計画見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが併設されている為、本人が以前通っている経歴等があった場合や家族の意向など踏まえながら、短時間でも気分転換になるならば参加している入居者もいる。	デイサービスが併設されている為、本人が以前通っている経歴等があった場合や家族の意向など踏まえながら、短時間でも気分転換になるならば参加している入居者もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練等での消防や、食生活改善推進委員会の方々や日本舞踊などのボランティア。市内の高校生ボランティアや市外の大学生ボランティアなどと交流を持ち支援している。	防災訓練等での消防や、食生活改善推進委員会の方々や日本舞踊などのボランティア。市内の高校生ボランティアや市外の大学生ボランティアなどと交流を持ち支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行っている。また、必要時には受診に付き添い医師の指導を受けている。	往診医と医療機関協定を結び相互に連絡調整を行っている。また、必要時には受診に付き添い医師の指導を受けている。	利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医、または往診医を利用している。通院は原則として家族対応であるが、精神科に関しては職員による通院介助が行われている。受診情報や結果については、家族に口頭やメモで伝えるとともに、業務日誌や介護日誌に記入して職員間で共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整えてあり看護師は定期的に健康管理にきている。その際にバイタルチェックや服用している薬に関して相談したり体調についてのアドバイスを受けている。	医療連携体制を整えてあり看護師は定期的に健康管理にきている。その際にバイタルチェックや服用している薬に関して相談したり体調についてのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の夜間に病室で不穏になったケースがあった場合でも一時的にグループホームにて寝泊りできるような柔軟な対応は行っている。退院後も看護サマリをもらい入院中の情報を得ている。	入院中の夜間に病室で不穏になったケースがあった場合でも一時的にグループホームにて寝泊りできるような柔軟な対応は行っている。退院後も看護サマリをもらい入院中の情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針は契約時に家族に説明を行っているが、現時点では終末期の状況までは至っていない。	重度化した場合の対応に係る指針や看取りに関する指針は契約時に家族に説明を行っているが、現時点では終末期の状況までは至っていない。	契約時に事業所の方針を説明して家族には納得を得ているが、事業所での対応を希望する家族もいることから、今後は重度化や終末期対応について検討しなければと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に職員全体でAED講習会や応急処置の訓練を行ったが定期的には行っていない。	開所前に職員全体でAED講習会や応急処置の訓練を行ったが定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いでの防災訓練は行ったが、地域の方々の協力を得た形での訓練はまだ行ってない。	消防署立会いでの防災訓練は行ったが、地域の方々の協力を得た形での訓練はまだ行ってない。	昨年は、隣接のデイサービスセンターとの合同避難訓練と夜間想定避難訓練を行っている。災害備蓄リストがあり、順次、充足しているところである。	非常扉の手動による解錠方法、通報設備の使い方、消火器の取り出し方など、設備や機器の操作の再確認・訓練を全職員で行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別し、家族や公的機関には場合によっては見せることもあるが職員の持ち出しは厳禁としている。声掛けに関しては若干、不適切な時が見られることがあるのでミーティング等で注意を行っている。	公的な記録書類と職員間での申し送り事項とを完全に区別し、家族や公的機関には場合によっては見せることもあるが職員の持ち出しは厳禁としている。声掛けに関しては若干、不適切な時が見られることがあるのでミーティング等で注意を行っている。	個人ファイルはロッカーに保管され、利用者名など外から見られない工夫がされている。食後の排泄誘導は、さりげなく優しい口調で行われている。日々のケアの中で利用者の尊厳を侵すような言葉使いや口調に気づいたときは、その場で職員同士注意し合ったり、月例会議で議題に取り上げて注意を促している。	介護日誌や業務日誌など日々の記録類は利用者・家族や来訪者の目に触れないような場所で記入するか、表紙などをつけて隠す工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援している過程で本人の思いや希望の訴えができるようなコミュニケーションを取り支援している。	支援している過程で本人の思いや希望の訴えができるようなコミュニケーションを取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自分の思うように自然体な過ごし方ができるように支援している。	一人ひとり自分の思うように自然体な過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師が定期的に来られ本人の希望するスタイル（カット・カラー・パーマ）に仕上がるように努めている。昔から行き着けの美容院などに行くことを希望する方にはそのようにして頂いている。	訪問美容師が定期的に来られ本人の希望するスタイル（カット・カラー・パーマ）に仕上がるように努めている。昔から行き着けの美容院などに行くことを希望する方にはそのようにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備（野菜の皮むき等）など座ってできることもあるので工夫して一緒に行うようにしている。食器洗いや盛り付けなど本人が持っている力を活かして行って頂いている。	調理の下準備（野菜の皮むき等）など座ってできることもあるので工夫して一緒に行うようにしている。食器洗いや盛り付けなど本人が持っている力を活かして行って頂いている。	2～3日おきに業者から高齢者向けに栄養管理された食材の配達があり、事業所の厨房で調理している。誕生会などの行事食、おやつ作り、外食など、利用者の希望や好みを反映する工夫もされている。盛り付けや下膳、利用者同士での食事介助など、職員に声かけされなくとも自発的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の介護記録に常に摂取量や水分量をチェックをし、一日通して入居者がどれだけ摂ったか把握している。	個別の介護記録に常に摂取量や水分量をチェックをし、一日通して入居者がどれだけ摂ったか把握している。		

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導と確認を行い、同様に義歯洗浄も行っている。	毎食後の歯磨きの声掛け誘導と確認を行い、同様に義歯洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェックを15分単位で付けられるようシートを作成し、常に入居者一人ひとりが何時に排泄をしているか把握し、タイミングを計って誘導し失敗なく排泄できるようにしている。	排尿排便チェックを15分単位で付けられるようシートを作成し、常に入居者一人ひとりが何時に排泄をしているか把握し、タイミングを計って誘導し失敗なく排泄できるようにしている。	排泄チェック表の活用によるトイレ誘導で、リハビリパンツ使用者もほとんど失敗なく排泄の自立を維持している。おむつ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し食物繊維の豊富な食材を使ったメニュー作りをしている。昼食前に軽体操を行い、おやつ前には音楽をかけながら廊下の歩行練習を実施している。	水分摂取量に注意し食物繊維の豊富な食材を使ったメニュー作りをしている。昼食前に軽体操を行い、おやつ前には音楽をかけながら廊下の歩行練習を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めてはいないが、ほぼ一日置きくらいに無理なく入浴できるように支援している。時間帯は本人の希望する時間帯に合わせて行えるように配慮している。	曜日は決めてはいないが、ほぼ一日置きくらいに無理なく入浴できるように支援している。時間帯は本人の希望する時間帯に合わせて行えるように配慮している。	曜日や時間帯は決まっていないが、日中に入浴することが多い。入浴拒否があっても無理強いせず、利用者の気持ち次第でいつでも入浴できるよう対応している。自立度が低下して車イス使用となっても、介助方法を工夫して個浴槽で入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息やちょっとした午睡など本人の思うように過ごせるように支援している。居室に関してもプライベート空間と考え、用事がなければなるべく立ち入らないようにしながら見守っている。	食後の休息やちょっとした午睡など本人の思うように過ごせるように支援している。居室に関してもプライベート空間と考え、用事がなければなるべく立ち入らないようにしながら見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス等で薬の内容については説明をし共有している。薬が増えた時なども職員間で申し送りにて説明を添えて共有している。	カンファレンス等で薬の内容については説明をし共有している。薬が増えた時なども職員間で申し送りにて説明を添えて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、掃除機かけ、食器洗いなど各自ができることを役割とし毎日行っている。趣味活動に関しても散歩が好きな方や将棋が得意な方にも相手ができるような支援を行っている。	洗濯たたみ、掃除機かけ、食器洗いなど各自ができることを役割とし毎日行っている。趣味活動に関しても散歩が好きな方や将棋が得意な方にも相手ができるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度、希望があれば職員と外へ散歩に出掛けたり、週に3回は一緒に食材やその他買い物に出掛けている。	その都度、希望があれば職員と外へ散歩に出掛けたり、週に3回は一緒に食材やその他買い物に出掛けている。	日常的な買い物や散歩、自宅など近隣の場所へのドライブなど、利用者一人ひとりの希望に沿って外出支援が行われている。また、行事として外食や日帰りの温泉旅行に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の規定により事業所には現金を置けないことになっている為、入居者も所持金を持てる状況ではない。	法人の規定により事業所には現金を置けないことになっている為、入居者も所持金を持てる状況ではない。		

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（竹とんぼ）	ユニット名（紙ふうせん）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば事務所の電話から家族や馴染みのある方などに掛けて頂いている。	本人の希望があれば事務所の電話から家族や馴染みのある方などに掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開所してまだ1年程度なので特に不潔な場所もなく故障等もない為、心地良く過ごしていただいている。季節によってちょっとした飾り付けに変化を与えている。	開所してまだ1年程度なので特に不潔な場所もなく故障等もない為、心地良く過ごしていただいている。季節によってちょっとした飾り付けに変化を与えている。	居間の広い窓から田畑や富士山が見渡せ、季節の移ろいを感じ取ることができる。居間の角には炬燵が設えられた小上がりの畳スペースがあり、腰かけて会話を楽しんだり、寝転んだりできる。厨房にも続いているため、利用者と職員が集う温かな居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに和室を設けてあり、冬は炬燵を置きテレビを見たり気軽に寝転んだりできるようになっている。	フロアに和室を設けてあり、冬は炬燵を置きテレビを見たり気軽に寝転んだりできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に本人が自宅で使用されていた物などをそのまま持ってきていただきたいと家族には伝えている。	入居される時に本人が自宅で使用されていた物などをそのまま持ってきていただきたいと家族には伝えている。	部屋の表札は家族の手作りである。居室内はエアコンのみ備え付けで、その他寝具やタンスなど利用者の馴染みの物が置かれ、利用者や家族の好みを反映したその人らしい部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアや廊下等は全面バリアフリーとし、トイレ浴室は手摺を設置し、できるだけ本人の身体機能を引き出しながら支援ができるようになっている。	フロアや廊下等は全面バリアフリーとし、トイレ浴室は手摺を設置し、できるだけ本人の身体機能を引き出しながら支援ができるようになっている。		